

岡山県井原市立高

○藤原純子

広島大教育

関志比子

菊沢康子

島根大教育

多々紐道子

目的 本研究はオモ報の学歴構造による違いをふまえて検討する。中等教育歴の婦人の学校における課程が普通科、家政科、その他(農商工)と異なり、カリキュラムに差があり、一幸には扱えない。そこで、履習した課程と現在の学習活動への参加状況とその内容、知識技術の供給源、家庭科の評価と期待などとの関連を把握し考察したいと考える。

方法 前報と同様である。本分析対象は、旧制の高等女学校、新制の高等学校卒の学歴をもつ者795人とした。その課程は、普通科197人、家政科149人、その他(農・商・工業科など)167人に分類し、比較、検討した。

結果 ①学習活動への参加理由は、普通科卒の者が自己発展を主眼としているのに対し家政科卒の者は家事的内容への関心からの参加が強かった。②学習活動の方法は、普通科卒の者が社会とのつながりを求めて個人的グループやサークルに参加しているのに対して、家政科卒の者は婦人会等の団体活動に参加していた。③知識・技術の供給源は、いずれも家庭から学んだ者が多かった。但し、普通科卒ではその他に市民講座などの各種団体の主催する学習活動への参加もかなりみられた。④家庭科に対する評価は、家政科卒の者が普通科卒、その他と比べて役立ったとする者が顕著に多かった。これらの結果にかかわる要因と問題点をより広範囲な視点から、今後さらに考察していく必要がある。